

彙報

哲学研究 第五百五十四号

一四八

一 服部英次郎先生の御逝去

元関西大学教授、服部英次郎先生は、昭和六十一年七月三十一日午前六時、愛仁会高槻病院において、腎不全のため逝去された。享年八十一歳。

先生は明治三十八年一月十四日和歌山市にお生まれになり、昭和三年三月京都帝国大学文学部哲学科を卒業された。昭和六年六月より京都帝国大学助手として御勤務ののち、昭和十六年四月から、神戸商業大学予科教授を振り出しに、神戸経済大学予科、神戸大学文学部、名古屋大学および奈良女子大学の各文学部において、それぞれ教授を御歴任、昭和五十年三月の関西大学文学部教授御退職を以て教育職に節目を迎へられたが、御研究は生涯御継続になつた。

先生は、厳正な原典主義および文献批判の方法に基きつつ、他方精神史的考察をも並用され、西洋の哲学思想史、就中中世哲学史、特にアウグスティヌスの研究によって、学界に多大の業績を残された。御著書には『西洋古代中世哲学史』（昭和五十一年、ミネルヴァ書房）、および『アウグスティヌス』（昭和五十五年、勤草書房）があり、また御訳業多数のうち、アウグスティヌス『告白』（上・中・下、昭和二十六年、岩波文庫）、同『神の国』（一―四、但し四は藤本雄三氏と共訳、五は未刊、昭和五十七―六十二年、岩波文庫）、ハルナック編『アウグスティヌス・省察と箴言』

（昭和十二年、岩波文庫）などは学徒だけでなく、ひろく読書家にも愛読されてゐる。

先生は、京都帝国大学助手に御在職の頃、約八年の長きに亘つて、『哲学研究』の編輯および京都哲学会の実務一般を担当され、先師先進の偉業を継承、後輩に伝送された。その間、論文「ニーコラウス・クサーヌス」（第十五卷、第一、三、五号、昭和五年）をはじめ、翻訳など十余篇を『哲学研究』に寄せられる等々、本誌の現在と歴史とは、先生の御苦勞のひとつひとつを別にして考へることは出来ない。

ここに、本哲学会への御功勞を銘記し、長年の御厚情に衷心より御礼申しあげ、また学界教育界への御功績を讃嘆しつつ、謹んで御冥福をお祈り申しあげます。

昭和六十二年九月

京都哲學會

〔追記〕 先生は、昭和五十八年勲三等瑞宝章の叙勲を受けられ、また、御逝去とともに従三位に叙せられた。なほ、先生が蒐集せられた貴重な文献の数々は、現在、関西大学図書館に收藏されてゐる。

二 坂口清（さかぐち・すが）氏の御逝去

京都大学文学部元文部事務官、坂口清氏は昭和六十二年二月十四日、京都府立医大病院で逝去された。享年七十四歳。（御墓所は滋賀県坂田郡山東町にあり、御遺族に実兄松浦氏が居られる。）

同氏は京都市（吉田近衛町）の御出身。昭和十二年四月から京都大学文学部に勤務、昭和五十一年四月に退官されるまで、は

西村嘉三郎

遠山郁代

左記の会員の方々がお亡くなりになっておられる。本学会への久しい御厚誼を偲び、謹んで御冥福と御遺族の御平安とをお祈り申し上げる。(括弧内はお亡くなりの日、最終御勤務先、御遺族の御住所または御墓所。)

三 会員の御逝去について

京都哲學會

昭和六十二年九月

はじめ国史学、ついで社会学の各研究室で、学事一般、特に古文書読解や諸資料整理等を通じ、各講座の学術活動を支へられた。また退官後は関ヶ原市史の編纂に従事されるなど、学界への基礎的貢献を終生継続されてゐる。特に、退官されるまで十餘年の長きにわたり、京都哲学学会の事務一般を担当され、学会の維持運営を全くの「縁の下」から支へられた。あの大学紛争の際にも、バックナンバーの一冊だに逸失することなく、学会の活動に聊かの支障もなかりしは、ひとへに同女史の功業である。ここに、京都哲学学会への久しき御貢献と御厚情とに衷心より御礼申しあげ、隠れた所で隠れたるものためひたすら奉仕を積まれた御人柄を偲びつつ顕彰し、謹んで御冥福をお祈り申あげます。

(二)

高畑喜代志

井上庄七

(右判明したもののみ。敬称略。会員の消息についてお気づきの方は、京都哲学学会宛おしらせ下さい。)

四 京都哲学学会委員の異動

京都哲学学会現任委員のうち、昭和六十二年三月末日をもって、松丸寿雄氏、美濃正氏(以上両氏とも助手退職・転出のため)が退任された。また、同年四月一日付をもつて、華阪直行氏(心理学講座助教授着任のため)、濱野研三氏(哲学講座助手着任のため)、森哲郎氏(基督教学講座助手着任のため)の三氏が新たに委員に加わられた。

五 京都哲学学会公開講演会記事

昭和六十一年度の京都哲学学会公開講演会は、十一月三日(月)午後一時半から、京都大学文学部第六講義室において、左記の如く行われた。

一、古典インドにおける創造の概念

京都大学教授 服部正明氏

一、絵画表現の背景

一四九

京都大学助教授 佐々木丞平氏

講演会は、高田三郎、本吉良治の両文学部名誉教授の他、吉川健郎（鹿児島）、三浦義和（熊本）等、遠方からの会員の御出席も得て、盛会であった。また、終了後、京大会場において、服部、佐々木両氏を囲んで、約二十五名の会員が晚餐を共にしつつ、討論、歓談のひとときをすごした。

六 外国哲学者来訪講演会記事

ジャック・ドント博士（ポワティエ大学教授・フランス哲学会会長）

昭和六十一年二月二十八日 於文学部

「ヴォルテールの読者としてのヘーゲル——ヘーゲルと啓蒙——」

啓蒙——」

ラインハルト・ラウト博士（ミュンヘン大学教授）

昭和六十一年十一月二十五日 於京大会場

「フイヒテ哲学における弁証法の起源」

七 京都大学文学部哲学科講義題目

以下に掲載するのは、昭和五十三年度の京都大学哲学科講義題目である。古い年度のものであるが、産報欄休載期間中に属するため、同期間中の他の年度の題目と同様、参考資料としてここに掲載する。

——昭和五十三年度——

※ 二回生が履習できる専門科目

〔共〕大学院と共通

〔院〕大学院のみ

哲学

講義 教授 辻村 公一 ※哲学概論

研究 教授 辻村 公一 様相論理学 〔共〕

” 助教授 木曾 好能 現代における存在論の可能性 〔共〕

” 助教授 竹市 明弘 帰納法と確率の基礎（倫理学と共通） 〔共〕

” 助教授 内井 惣七 日本思想史（倫理学、仏教と共通） 〔共〕

” 講師 坂東 性純 日本思想史（倫理学、仏教と共通） 〔共〕

” 教授 辻村 公一 Heidegger: Sein und Zeit 〔共〕

演習 I 教授 辻村 公一 Locke: An Essay concerning Human Understanding 〔共〕

” 助教授 木曾 好能 Kant: Kritik der reinen Vernunft 〔共〕

” 助教授 石井 誠士 Descartes: Regulae 〔共〕

” 講師 井上 庄七 Maine de Biran: De l'aperception immédiate 〔共〕

” 講師 山形 頼幸

” 講師 山形 頼幸

” 講師 山形 頼幸

” 講師 山形 頼幸

” 講師 山形 頼幸

” 講師 山形 頼幸

講読	助手	杉山聖一郎	Ernst Cassirer: Determinismus und Indeterminismus	演習II	教授	山田 晶	Thomas Aquinas: Summa Theol. I. [共]
演習II	教授	辻村 公一	哲学の諸問題	演習III	教授	山田 晶	Thomas Aquinas: Summa Theol. I. [共]
演習III	助教授	木曾 好能	現代分析的哲学	演習	人文研究教授	山下 正男	(前期) Guillelmus Ochham; Tractatus Logicae Minor (後編) Walter Burleigh: De Propositionibus Hypotheticis Conditionalibus [共]
		西洋哲学史					
講義	教授	藤沢 令夫	※西洋古代哲学史概説				
〃	教授	山田 晶	※西洋中世哲学史概説				
〃	教授	酒井 修	※西洋近世哲学史概説	〃	講師	小池 三郎	Augustinus: De doctrina Christiana (基督教哲学への共通) [共]
研究	教授	藤沢 令夫	類型性(イデア・パラダイム)と現実性(エネルゲイア)	〃	講師	日下 昭夫	Anselmus: Cur Deus homo. [共]
〃	教授	山田 晶	創造の問題				
〃	講師	稲垣 良典	トマス・アライナスの倫理学 (基督教哲学への共通)	〃	講師	山本 耕平	Thomas Aquinas: In Aristotelis Peri Hermeneias Expositio [共]
〃	講師	大江 晁	論理的諸問題の展開	演習I	教授	酒井 修	Hegel: Phanomenologie des Geistes [共]
演習I	教授	藤沢 令夫	科学思想史	演習	教養部助教授	磯江 景孜	Kant: Kritik der praktischen Vernunft [共]
演習II	教授	藤沢 令夫	Platon: Philebus [共]				
			Aristoteles: De Generatione et Corruptione (B8~), De Caelo [共]	〃	講師	観山 雪陽	Joh. Gottl. Fichte: Reden an die deutsche Nation [共]
演習III	講師	種山 恭子	Plotinos: Enneades [共]				
演習I	教授	山田 晶	Augustinus: Confessiones [共]	〃	講師	田中 英三	W. James: The Varieties of Religious Experience (倫理哲学)

宗教学と共通)

[共]

講読 講師 山野 耕治 W. Jaeger: *Paideia, die Formung des griechischen Menschen*

演習 教授 服部 正明

Ramānuja, *Bhagavadgītābhāṣya*

Platon: *Phaedo*

[共]

〃 助教授 小林 信彦

サンスクリット文選Ⅰ(梵語学

〃 助手 今林万里子

歴史的な世界から超歴史的なもの

〃 講師 井狩 弥介

後期ヴェーダ文献(仏教学、梵

研究 教授 酒井 修

ヘゲル: *Phänomenologie des Geistes*

語学 助教授 小林 信彦

※サンスクリット文法(仏教学、西南アジア史学、梵語学梵文学と共通)

演習Ⅱ 教授 酒井 修

〔院〕

〔院〕

〔共〕

印度哲学史

講義 教授 服部 正明

※インド思想史

中国哲学史

研究 教授 服部 正明

古典インドにおける意味論

講義 教授 湯浅 幸孫

※三教の交渉

〃 講師 奈良 康明

インド宗教文化史研究序説(仏教学、梵語学梵文学と共通)

研究 講師 戸川 芳郎

漢代の学術と文化

〃 講師 奈良 康明

〔共〕

〃 人文研究 助教授 吉川 忠夫

六朝末の知識人(東洋史学と共通)

〃 講師 矢野 道雄

〔共〕

演習 教授 湯浅 幸孫

翁注困学紀聞

〃 講師 矢野 道雄

〔共〕

〃 人文研究 教授 尾崎雄二郎

説文解字注(中国語学中国文学と共通)

〃 講師 矢野 道雄

〔共〕

〃 講師 日原 利国

周礼注疏

〃 講師 竹中 智泰

〔共〕

〃 講師 西脇 常記

正史儒林伝

〃 講師 津田 真一

〔共〕

〃 講師 黄 济清

劉師培遺書

〃 講師 津田 真一

〔共〕

〃 講師 湯浅 幸孫

全祖望の学術

梵文学、仏教学と共通(後期)

〔院〕

研究 教授 湯浅 幸孫

〔院〕

心理学

講義

教授 本吉 良治 ※心理学概論
教授 柿崎 祐一 ※知覚の問題

” 教育学部 梅本 堯夫 教育心理学(教育学部と共通、ただし、教職科目ではない)

” (前期) 教育学部 河合 隼雄 人格心理学概論(教育学部、倫理学と共通、ただし、教職科目ではない)

ではない)

” 教授 柿崎 祐一

心理学特殊実験(実験乙)

実習

教授 本吉 良治
教授 柿崎 祐一

※心理学基礎実験(実験甲)

”

講師 住田幸次郎 ※統計法基礎実習
講師 島 久洋 社会心理学関係の英書講読
研究 教授 柿崎 祐一 コフカ、ゲンタルト心理学の原

理 [院]

演習 教授 柿崎 祐一

現代心理学の諸問題

[院]

研究

教授 本吉 良治

オペラント行動の諸問題 [共]

” 講師 生沢 雅夫

実験計画 [共]

” 講師 岡 宏子

発達研究の諸問題 [共]

” 講師 永田 良昭

対人関係の研究 [共]

” 講師 小嶋 秀夫

発達研究の最近の動向(教育学部と共通) [共]

倫理学

” 講師 蜂屋 良彦

集団におけるリーダーシップの諸問題(教育学部と共通) [共]

演習

助教 平野 俊二

心理学演習(1)

” 教授 柿崎 祐一

心理学演習(2)

助教 本吉 良治

心理学と共通、ただし、教職科目ではない)

助教 平野 俊二

心理学と共通、ただし、教職科目ではない)

研究

(前期) 教育学部 河合 隼雄

人格心理学概論(教育学部、心理学と共通、ただし、教職科目ではない)

彙報

(後期)
教育学部
助教 教授 坂野 登

” 教養部 有 福 孝 岳 自我の問題 [共]

” 人文研 内 井 惣 七 婦 納 法 と 確 率 の 基 礎 (哲 学 と 共 通) [共]

” 講 師 中 埜 盛 ド イ ン 観 念 論 に お け る 自 由 概 念 の 変 遷 [共]

” 講 師 坂 東 性 純 日 本 思 想 史 (哲 学 、 仏 教 学 と 共 通) [共]

演習Ⅰ 教 授 森 口 美 都 男 Kant: Kritik der Urteilskraft, § 41 ㄥㄥ [共]

演習Ⅱ 教 授 森 口 美 都 男 倫 理 学 の 諸 問 題 [共]

演習Ⅲ 講 師 深 谷 裕 作 M. Scheler: Der Formalismus in der Ethik und die Materiale Wertheik [共]

” 講 師 三 嶋 唯 義 H. Bergson: Les deux Sources de la Morale et de la Religion [共]

演 習 講 師 田 中 英 三 W. James: The Varieties of Religious Experience (西洋哲学史、宗教学と共通) [共]

講 読 助 教 授 西 谷 裕 作 K. Löwith: Das Individuum

” 助 教 授 西 谷 裕 作 in der Rolle des Mitmenschen [共]
G. Marcel: Journal Métaphysique

講 義 教 授 吉 岡 健 二 郎 ※ 美 学 概 論

” 助 教 授 清 水 善 三 ※ 日 本 美 術 史 概 説

研 究 教 授 吉 岡 健 二 郎 ヴ ァ イ ン 学 派 の 芸 術 哲 学 [共]

” 助 教 授 清 水 善 三 肖 像 彫 刻 の 研 究 [共]

” 教 養 部 乾 由 明 フ ラ ン ス 十 九 世 紀 絵 画 史 [共]

” 教 養 部 新 田 博 衛 音 楽 美 学 序 説 [共]

” 講 師 武 田 恒 夫 狩 野 派 史 論 [共]

” 講 師 西 村 規 矩 夫 北 方 ル ネ サ ンス の 絵 画 [共]

” 講 師 山 岡 泰 造 中 国 絵 画 史 の 問 題 点 [共]

” 講 師 中 村 興 二 浄 土 教 美 術 論 — 絵 画 を 中 心 と し て — [共]

演習Ⅰ 教 授 吉 岡 健 二 郎 美 学 美 術 史 学 の 諸 問 題

助 教 授 清 水 善 三 美 学 美 術 史 学 の 実 地 指 導 [共]

演習Ⅱ 助 教 授 清 水 善 三 美 術 史 学 の 実 地 指 導 [共]

講 読 助 教 授 新 田 博 衛 Gisele Brelet, Le temps musical, 1949.

〃 講師 米沢 有恒 *Emil Uitz, Aesthetik.* 演習 助教授 中 久郎 現代社会学の諸問題 [院]
 演習 I 助教授 吉岡健二郎 } 美学美術史学研究の諸問題 [院]
 助教授 清水 善三 }

社会学

社会学 (比較社会学)

講義 助教授 中 久郎 ※社会学概論 [院]
 研究 助教授 中 久郎 共同性の理論 [共]
 研究 教授部 作田 啓一 思想とパーソナリティ [共]
 〃 講師 大村 英昭 統合理論と闘争理論 [共]
 〃 講師 越井 郁朗 社会的相互作用論 [共]
 〃 講師 中野秀一郎 「知識の構造」と「社会の構造」 [共]
 研究 講師 新 陸人 社会学における実証的研究 [院]
 〃 講師 上子 武次 役割関係の研究 [院]
 〃 講師 浜口 恵俊 比較文明社会学の課題と方法
 心理人類学的アプローチ

研究 教授部 作田 啓一 思想とパーソナリティ [共]
 〃 講師 大村 英昭 統合理論と闘争理論 [共]
 〃 講師 越井 郁朗 社会的相互作用論 [共]
 〃 講師 中野秀一郎 「知識の構造」と「社会の構造」 [共]
 演習 併任 水野 浩一 社会組織の比較 [院]
 〃 教授 水津 一朗 地域の諸問題 (地理学と共通) [院]
 助教授 応地 利明

〃 講師 宝月 誠 逸脱と統制の社会学 [共]
 〃 講師 益田 庄三 日本村落の社会学 [共]
 演習 I 助教授 中 久郎 社会学の諸問題
 演習 II 助教授 中 久郎 社会学方法論
 講義 講師 児玉 昇 Eugen Lemberg: Soziologie des Nationalismus
 〃 助手 高沢 淳夫 E. Durkheim: eux Diols de révolution pénale [共]
 〃 講師 石田 慶和 親鸞の思想の哲学的解明 [共]
 〃 講師 中村広治郎 イスラムの思想と歴史 [共]
 演習 I 教授 上田 閑照 Jaspers: Der philosophische Glaube angesichts der Offen-

講義 講師 児玉 昇 Eugen Lemberg: Soziologie des Nationalismus
 〃 助手 高沢 淳夫 E. Durkheim: eux Diols de révolution pénale [共]
 〃 講師 石田 慶和 親鸞の思想の哲学的解明 [共]
 〃 講師 中村広治郎 イスラムの思想と歴史 [共]
 演習 I 教授 上田 閑照 Jaspers: Der philosophische Glaube angesichts der Offen-

講義 講師 児玉 昇 Eugen Lemberg: Soziologie des Nationalismus
 〃 助手 高沢 淳夫 E. Durkheim: eux Diols de révolution pénale [共]
 〃 講師 石田 慶和 親鸞の思想の哲学的解明 [共]
 〃 講師 中村広治郎 イスラムの思想と歴史 [共]
 演習 I 教授 上田 閑照 Jaspers: Der philosophische Glaube angesichts der Offen-

		barung (教育学部と共通)							
〃	助教授	長谷 正世	P. Ricoeur: Philosophie de la Volonté	〔共〕	〃	講師	奈良 康明	インド宗教文化史研究序説(印度哲学史、梵語学梵文学と共通)	〔共〕
演習	講師	田中 英三	W. James: The Varieties of Religious Experience (西洋哲学史、倫理学と共通)	〔共〕	〃	講師	坂東 性純	日本の思想史(哲学、倫理学と共通)	〔共〕
〃	講師	大塚 顕	Schelling: Über das Wesen der menschlichen Freiheit	〔共〕	演習	教授	梶山 雄一	Sikṣānucaya	〔共〕
〃	講師	稲葉 稔	Hegel: Phänomenologie des Geistes	〔共〕	〃	教授	大地原 豊	パーリ・ブラーリット文選(梵語学梵文学と共通)	〔共〕
〃	講師	川村 永千	S. Kierkegaard: Philosophische Brocken (基督教学と共通)	〔共〕	〃	助教授	小林 信彦	サンスクリット文選I(印度哲学史、梵語学梵文学と共通)	〔共〕
講読	教授	上田 閑照	Nietzsche: Also sprach Zarathustra	〔共〕	〃	人文研	柳田 聖山	正法眼蔵	〔共〕
講読	講師	西村浩太郎	Pascal: Pensées	〔共〕	〃	助教授	荒牧 典俊	Suttantipāṭa	〔共〕
演習II	教授	上田 閑照	宗教哲学の諸問題	〔院〕	〃	講師	井狩 弥介	後期ヴェーダ文獻(印度哲学史、梵語学梵文学と共通)	〔共〕
	助教授	長谷 正世			〃	人文研	御牧 克己	梵語仏典選集	〔共〕
	仏教学				語学	助教授	小林 信彦	※サンスクリット文法(印度哲学史、西南アジア史学、梵語学梵文学と共通)	〔共〕
講義	教授	梶山 雄一	※インド仏教思想史						
研究	教授	梶山 雄一	説一切有部の存在論	〔共〕					

〃 講師 頼富 本宏
チベット語(初級)(各学科共通チベット語と共通) [共]

〔共〕

基督教学

講義 助教 水垣 渉
※原始キリスト教思想

研究 助教 水垣 渉
初期キリスト教における「探求」の問題 [共]

〔共〕

研究 講師 森田雄三郎
キリスト論の動向と変化 [共]

〃 講師 稲垣 良典
トマス・アクイナスの倫理学(西洋哲学史と共通) [共]

〔共〕

演習 助教 水垣 渉
Origenes: De principis (前年度の続々) [共]

〔共〕

〃 講師 野本 真也
古典ヘブライ語文法および創世記原典の講読・釈義(西南アジア史学と共通) [共]

〔共〕

〃 講師 遠藤 彰
マタイ、ルカ両福音書原典講読・釈義 [共]

〔共〕

〃 講師 小池 三郎
Augustinus: De doctrina Christiana (西洋哲学史と共通) [共]

〔共〕

〃 講師 今井 晋
M. Luther: Vorlesung über den Römerbrief [共]

〔共〕

〃 講師 川村 永千
S. Kierkegaard: Philosophische Brocken (宗教学と共通)

〔共〕

〃 助教 水垣 渉
院生の研究発表を中心に討論する [院]

〔院〕

八 京都大学文学部哲学科講義題目・論文題目

等掲載箇所対照表(年度順)

去る昭和四十八年三月より五十三年三月に亘る彙報欄休載のため、同欄復活後、同期間中の京都大学文学部哲学科講義題目、卒業論文題目その他の追加掲載が錯綜し、読者に御不便をおかけした。本号を以て休載期間中の当該事項の掲載が完了したので、第五四〇号の編集報告に基づき、年度順の掲載箇所を以下に対照し、読者の方々の御便宜を図ることにしたい。

講義題目

- 昭和四十三年度……第五〇九号(第四十四卷第三册)
- 昭和四十四年度……第五一四号(第四十四卷第八册)
- 昭和四十五年度……第五一六号(第四十四卷第十册)
- 昭和四十六年度……第五二一号(第四十五卷第三册)
- 昭和四十七年度……第五四〇号(第四十六卷第十册)
- 昭和四十八年度……第五四四号(第四十七卷第二册)
- 昭和四十九年度……第五四六号(第四十七卷第四册)
- 昭和五十年度……第五四七号(第四十七卷第五册)
- 昭和五十一年度……第五四九号(第四十七卷第七册)
- 昭和五十二年度……第五五三号(第四十七卷第十一册)

昭和五十三年度……第五四号（第四十七卷第十二册）
 昭和五十四年度……第五三八号（第四十六卷第八册）
 昭和五十五年度……第五四一号（第四十六卷第十一册）
 昭和五十六年度……第五四三号（第四十七卷第一册）
 昭和五十七年度……第五四五号（第四十七卷第三册）
 昭和五十八年度……第五四八号（第四十七卷第六册）
 昭和五十九年度……第五五一号（第四十七卷第九册）
 昭和六十年度……第五五二号（第四十七卷第十册）

卒業論文題目

昭和四十五年三月……第五一五号（第四十四卷第九册）
 昭和四十六年三月……第五二一号（第四十五卷第三册）
 昭和四十七年三月……第五三九号（第四十六卷第九册）
 昭和四十八年三月……第五四二号（第四十六卷第十二册）
 昭和四十九年三月……第五四四号（第四十七卷第二册）
 昭和五十年三月……第五四六号（第四十七卷第四册）
 昭和五十一年三月……第五四七号（第四十七卷第五册）
 昭和五十二年三月……第五四九号（第四十七卷第七册）
 昭和五十三年三月……第五五三号（第四十七卷第十一册）
 昭和五十四年三月……第五三七号（第四十六卷第七册）
 昭和五十五年三月……第五四一号（第四十六卷第十一册）
 昭和五十六年三月……第五四三号（第四十七卷第一册）
 昭和五十七年三月……第五四五号（第四十七卷第三册）
 昭和五十八年三月……第五四八号（第四十七卷第六册）

修士課程修了論文題目

昭和五十九年三月……第五五一号（第四十七卷第九册）
 昭和六十年三月……第五五二号（第四十七卷第十册）
 昭和四十五年三月……第五一五号（第四十四卷第九册）
 昭和四十六年三月……第五二一号（第四十五卷第三册）
 昭和四十七年三月……第五三九号（第四十六卷第九册）
 昭和四十八年三月……第五四二号（第四十六卷第十二册）
 昭和四十九年三月……第五四四号（第四十七卷第二册）
 昭和五十年三月……第五四六号（第四十七卷第四册）
 昭和五十一年三月……第五四七号（第四十七卷第五册）
 昭和五十二年三月……第五四九号（第四十七卷第七册）
 昭和五十三年三月……第五五三号（第四十七卷第十一册）
 昭和五十四年三月……第五三七号（第四十六卷第七册）
 昭和五十五年三月……第五四一号（第四十六卷第十一册）
 昭和五十六年三月……第五四三号（第四十七卷第一册）
 昭和五十七年三月……第五四五号（第四十七卷第三册）
 昭和五十八年三月……第五四八号（第四十七卷第六册）
 昭和五十九年三月……第五五一号（第四十七卷第九册）
 昭和六十年三月……第五五二号（第四十七卷第十册）

博士課程単位修得者研究論文要旨題目

昭和四十五年三月……第五一五号（第四十四卷第九册）
 昭和四十六年三月……第五二一号（第四十五卷第三册）

昭和四十七年三月……第五四〇号(第四十六卷第十冊)
 昭和四十八年三月……第五四二号(第四十六卷第十二冊)
 昭和四十九年三月……第五四四号(第四十七卷第二冊)
 昭和五十年三月……第五四六号(第四十七卷第四冊)
 昭和五十一年三月……第五四七号(第四十七卷第五冊)
 昭和五十二年三月……第五四九号(第四十七卷第七冊)
 昭和五十三年三月……第五五三号(第四十七卷第十一冊)
 昭和五十四年三月……第五四〇号(第四十六卷第十冊)

博士後期課程学修者氏名

昭和五十五年三月……第五四三号(第四十七卷第一冊)
 昭和五十六年三月……第五四三号(第四十七卷第一冊)
 昭和五十七年三月……第五四五号(第四十七卷第三冊)
 昭和五十八年三月……第五四八号(第四十七卷第六冊)
 昭和五十九年三月……第五五一号(第四十七卷第九冊)
 昭和六十年三月……第五五二号(第四十七卷第十冊)

九 「日本学術会議だより」 内容紹介

京都哲学会は、従来より、日本学術会議の「広報協力学術研究団体」(旧称は「連絡学・協会」)の一つとなっており、さらに、正式の「登録学術研究団体」として登録を行うか否かを、現在検討中である。同会議の広報協力学術団体は、「日本学術会議活動の周知を図るとともに各分野の学術研究団体との緊密な連絡・協力を維持・強化するための広報活動に協力」するこ

とを旨とする学術団体であることを、要請されている。このような要請に対応する活動の一環として、本誌は、同会議広報委員会により本年度から発行されている「日本学術会議だより」の内容を、編集を加え、適宜、『哲学研究』誌上に掲載することにした。以下に、「日本学術会議だより」第一〜三号の内容を紹介する。

第一号——昭和六十一年五月

——「日本学術会議だより」の創刊に当たって——

日本学術会議は、第一三期の活動の重点の一つとして、学・協会との連携の強化に努めるため、従来以上に広報活動の充実をはかることとしております。

このたび、その一環として、当会議の活動状況を定期的にお知らせするため、今年五月から四半期ごとに「日本学術会議だより」を各学・協会の機関誌等に御掲載願うことにいたしました。

今後もし引き続き御一読いただければ幸いです。

〔見出し〕「百回を迎えた日本学術会議総会」

〔内容〕 四月二十三、二十四日に行われた日本学術会議第百回総会の議事概要の報告。中心は、「脳死をめぐる諸問題について」の会員による討論の報告。

第二号——昭和六十一年八月

〔見出し〕「日本高齢社会総合研究センター(仮称)の設立について」の提言を公表

〔内容〕日本学術会議高齢化社会特別委員会によって五月二

十六日になされた、右記「提言」の概要。

他に、物理学、結晶学兩研究連絡委員会によって発表された「中性子回折・散乱研究の推進に関する意見」に関する記事、日本学術会議主催公開講演会「二十一世紀の学術」の開催（九月二十七日、於日本学術会議講堂）の案内等。

第三号——昭和六十一年十一月

〔見出し〕「第十三期初めての勧告・要望出る」

〔内容〕十月二十二日から二十四日まで開催された第百一回総会の議事概要の報告。主要記事は、同総会で採択され、日本学術会議より政府に対してなされた勧告「国立代用臓器開発研究センター（仮称）の設立について」、及び要望「我が国における学術研究の推進について——大学院の充実等を中心として——」に関する記事。

他に、高度情報社会特別委員会のメンバーによる「高度情報社会の展望と課題」に関する自由討議、財団法人日本学術協力財団の設立等に関する記事を取載。

〔編輯者後記〕 本号の彙報欄は著るしく記事が輻輳しましたので、他は次号以後に掲載いたします。

前号（五五三号）、前々号（五五二号）正誤表

五五二号	簡 所	誤	正
表紙	八行	伝統的形而上学	伝統的存在論
七四頁	一行	（・神観）	・神観
七五頁	十一行	(Xo'p'is)	(Xo'p'is)
一二二頁	十五行	ens diminutum	ens diminutum
一二四頁	十九行	単に	常に
一三六頁	十九行	文学通り	文字通り
一五四頁	十一行	Angustus	Angustus
〃	十九行	明解に	明快に
一五七頁	七行	Vignaux	Vignaux
〃	〃	Montréal	Montréal
一五八頁	七行	適格にも	的確にも
五五三号	簡 所	誤	正
七〇頁	九、十行	『ペークマンとの対話』	『ベルマンとの対話』
一四九頁	十四行	稲垣不二磨	稲垣不二磨